

泉岳寺せんがくじ
(坂井虎山さかいこざん)

山嶽可崩海可翻 不消四十七臣魂
墳前滿地草苔濕 盡是行人流涕痕

山嶽さんかく 崩すくずべし 海うみ 翻ひるがえすべし

解説 泉岳寺に詣でて四十七士の忠魂を弔った詩。

消せずしょう 四十七しじゅう七臣しちしんの 魂たましい

語釈 ※泉岳寺 港区の芝高輪の寺であるが、四十七士の墓のあることにより有名になった。※山嶽云々 源実朝の「山はさけ海はあせなむ世なりとも君にふた心わがあらめやも」の歌と同意である。※四十七臣 大石良雄以下四十七士。※墳 墓。※滿地 地上一面。※草苔 草や苔こけ。※流涕 流した涙。※行人 往来する人。ここは参詣する人のこと。

墳前ふんぜん 滿地まんち 草苔そうたい 湿うるおう

通釈 世には天変地異というものがあり、不動不変と思っている山

さえ崩れることもあり得るし、果てしなく広々とした海でもひっくり返ることもあり得る。だが、四十七士の魂は永久に消滅することはない。今、この墓前にぬかずけば、地上一面に草や苔がしつとりと湿っている。これこそは墓参の人びとが義士のために流した涙のあとなのである。

尽ことごとく 是れこ 行人こうじん 流涕りゅうていの 痕あと